

# 福ちゃんの第12回阿武隈高地(羽山)放射線量測定の日歩き記



発行日:2018.3.15

発行者:福間幸夫

山行概要:JR 成田線・酒々井駅⇒東京(新幹線)⇒郡山⇒磐越東線・神俣駅⇒県道 36 号東進⇒市境⇒羽山→

JR 針湯駅⇒郡山(新幹線)⇒東京⇒千葉⇒JR 酒々井

[\(山行記録詳細は別添Exel参照\)](#)

(参考にした資料:2009 福島登行会)

## 冬晴れ残雪の羽山 今回の山旅の最高線量値=0.34 $\mu$ Sv/h

羽山は、フクイチから西南西 WSW248.5° ,直線距離にして 32.6 kmにある標高 970.3m の山で、田村市といわき市の市境にある山である。また、羽山は阿武隈高地の最高峰・大滝根山 1192.5m の南方にある山で、田村市の最高峰でもある。(国土地理院 5 万分の 1[小野新町]、20 万分の 1[福島]&[白河]ご参照を) ついでに述べるならば、田村市滝根町は日本人初の宇宙飛行士として旧ソ連のソユーズに搭乗され、宇宙ステーションから見た地球の模様を中継された秋山豊寛氏が、3.11 福島原発爆発事故当時には有機農業にいそまれていた町でもある。(氏は、福島から京都に避難され、現在は三重県に在住。)

2018 年 2 月 14 日(水) 福ちゃんは、12 回目の阿武隈高地の山に向かう。7 年前のフクイチ事故時の真冬の福島の寒さを体験するためである。しかし、この日はたまたま初春を感じさせる冬晴れの温かい一日であった。

定刻通りに二両の車両は、JR 磐越東線・神俣駅に着く。駅はこじんまりした洋風の建物である。この駅で降車したのは、福ちゃんの他 2 名である。福ちゃん、駅前を出ると県道 36 号・小野富岡線がわからないので、非正規雇用者らしき女性の駅員さんに「滝根中学校はどちら方向ですか」と尋ねる。駅員さん「この駅前の道を線路伝いに行き、横断踏切を渡って、右折してください」と親切に教えて下さった。



↑ JR 磐越東線 神俣駅(10:41)



↑ JR 神俣駅駅近くの工場(10:47)

福ちゃん、言われた通りに 300m ばかり歩くと、日東粉化工業(株)・福島工場と言うかなり大きな工場が目に入る。福ちゃん、帰宅後にこの会社の概要を調べてみると、炭酸カルシウム(CaCO<sub>3</sub>)の採掘・製造・加工・販売の大手企業とのこと。そう言えば、この阿武隈高地の山々は白い石灰と花崗岩(採石)の山が多く、福ちゃんが社会に出て就職し最初に行った山口県の秋芳洞(カルスト台地)と似ている。

磐越東線の線路を横断すると直ぐに県道 36 号に出た。前方の羽山の左稜線上には、風力発電が林立している。



↑ 滝根中学校入口 @県道 36 号線(10:51)



↑ 写真中央右が羽山。左稜線、風力発電林立(10:55)



↑ 中央奥は大滝根山の自衛隊のレーダードーム



↑ 残雪の田んぼ @県道 36 号線沿い(11:41)



↑ 万太郎山入口(11:46)



↑ いわき市と田村市の市境の峠(12:08)

福ちゃん、ひたすら田村市といわき市の市境の峠を目指す。駅から1時間ばかり歩くと、峠手前 1.5 km付近で万太郎山入口の看板に出遭う。その看板の横には、[(株)ユーラスエナジー滝根小白井]の看板もあった。【追記】参照  
県道沿いには、先月1月22日に関東地方に降った大雪が残っていた。峠近くになると、風力発電所の音がガタンゴトンと大きくなってきた。遠くから眺める風車はゆっくり回り、一見長閑に見えるが、近くではこんなにもうるさいものかと初めて経験し驚いた。

正午過ぎ(12:10)、市境の峠(羽山の東側からの登山口)に着く。休む間もなく登頂開始。その登山口には小さな表示板[羽山→]が、立ち木に釘付けしてあった。





↑ 小さな標識 @羽山東側登山口(12:09)



↑ 獣の糞 @「岩場」手前付近(13:07)

ここからは、ミズナラやブナやドウダンツツジなどの雑木林の中の登りとなる。野ウサギの足跡はあるが人の踏み跡はない。残雪 10~20 cmの登りは、日昇と共に滑りやすくなる。アイゼンを着けようか着けまいかと迷うが、結局装着せずと登坂する。2009 年の福島登高会の記述では、登山道右手に土塁があるはずだが、それらしきものは見当たらない。駅から歩き続けて約 2 時間、市境界から 200m ばかり登ったところで小休憩(12:30)。近くにテンか？ムササビか？小動物の新鮮な糞があった。福ちゃんは冬山の動物の足跡を発見するといつも『シートン動物記』を思い出す。予定(計画)よりかなり時間が過ぎているので先を急ぐ。「岩場」は写真を撮る余裕もなく通過。960m のピークも気付かず通過。冬山吹雪ならば登山路を見失いそうな所もあり、その都度赤布を付けながら歩く。



↑ 羽山山頂三等三角点(970.3m) 14:02



↑ 三角点上の線量 0.28~0.34  $\mu$ Sv/h



↑ 山頂でくつろぐ福ちゃん(14:06)



↑ 沼の平(14:46 通過)

14:00 羽山山頂着。無雪期より 1.5 倍の時間を要した。今回はめずらしくカメラの三脚も持って来たので、山頂で写真を撮った。昼食(行動食)を取ると直ちに下山開始。下山路(神俣針湯側からの登山道)は、ほとんど雪解けており、スリップに注意しながらドンドン降る。50 分ほどで営林作業道(林道)の「羽山登山道」の表示に出る。営林作業道もかなり荒れており、谷あいのせせらぎで道が分からなくなったが、針湯の村落に出る。予定(計画)していた電車の次の電車にも余裕が無くなってきたので、また更にピッチを上げる。神俣駐在所近くの自動車修理場脇に目立たない「羽山登山入口」の看板を見つける。



↑ げやき平(15:00)



↑『羽山登山道』 @営林作業道分岐(15:20)



↑ 朽ちた小さな社 @針湯集落手前(15:59)



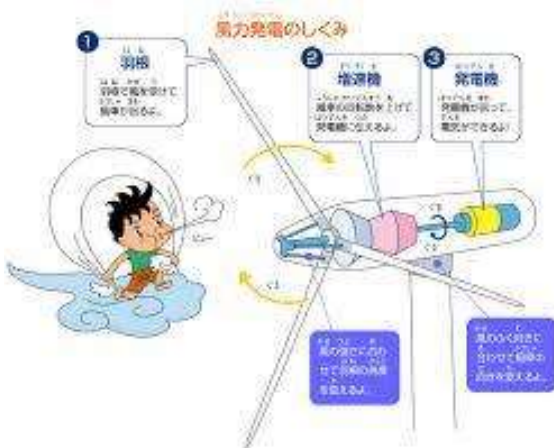
↑「羽山登山入口」 @神俣駐在所近く(16:15)

JR 神俣駅には計画の第 2 案(予備案)の電車の発車時間の 5 分前に辛くも到着(16:30)。間もなく来た電車に乗り、やっと登山靴の紐を緩める。この駅で乗車した客は、福ちゃん以外には一人だけだった。郡山駅に着くと直ぐに缶ビールと缶酎ハイと肴を買い込み、新幹線に乗る。これから先は、またいつもの福ちゃんのパターン、酒肴の帰路の旅となる。

【追記】ユーラスエネルギーホールディングス(Eurus Energy Holdings Corporation)は、豊田通商(旧トーマン)と東京電力ホールディングスの合弁会社。社名の由来は、ギリシャ神話・東の風の神エウロス Eurus から。写真の看板の[(株)ユーラスエネルギー滝根こしらひ小白井]は、平成 16 年(2004 年)に環境影響評価を経て、2011 年 1 月 13 日[ユーラス滝根小白井ウインドファーム発電所]として、2000kW x 23 基として開業(Wikipedia)。福ちゃん、ついでに、回転機屋の端くれとして風車の概要も調べみた。遠目で見ると風車は、あのドンキホーテの絵で見ると静かに回るオランダ風車の風景だが、今回の山行で驚いたのはガタンゴトンと大きな騒音源だ。それはどうもこの下図の増速機ギヤーの音かも知れない?羽根(ブレード)の風切り音では無さそうだ。福ちゃんがこれまでに見てきた山上の風車は、全て 3 枚羽根の



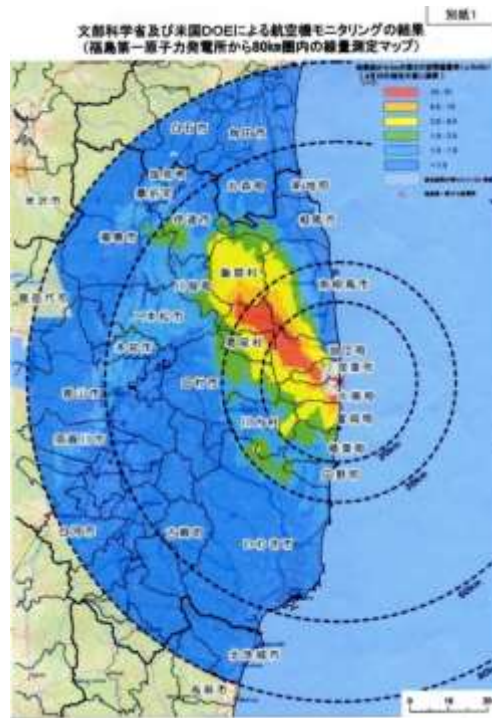
プロペラ型である。このタイプが一番効率が良い(最大効率 45%)ようだ。またいつか機会があれば直近まで行ってみて、よく調べてみようと思う。



各種風車の形状と風から取り出せるエネルギーの割合(最大効率)



↑ 国土地理院・地図 1:50,000 『小野新町』



↑ 2011年4月12日 文科省&米国DOE 航空機モニタリング

— 完 —

2018年3月15日・記